

● 教室(診療科)の特色 ●

形成外科は近年になり急速に発達した学問で、現在も発展し続けています。

新しいアイデアと発想でまったく新しい術式が生み出され、それがスタンダードな術式に成り代わる可能性を秘めています。また患者さんによって症例が1例1例異なるので、その人にあった一番よい方法を熟考しなければなりません。現在は患者さんが医師の技量と人柄を見て、受診をする時代です。

その期待に応えるため、医師は常に自分の技術を磨き、患者さんに合った最良の方法を考え、さらに優れた新しい治療方法を考える想像力を養うことが必要とされています。

このような自由な発想は、いろいろなジャンルの本を読んだり、いろいろな職種の人と話をすることによって培われ、アイデアも浮かびます。また、国際学会で研究成果を発表することも多いので、広い世界を意識してほしいと思います。



上田 晃一(うへだ こういち)教授(科長)

■ 専門分野

頭蓋顎顔面外科、マイクロサージャリー、唇顎口蓋裂、ケロイド・肥厚性癬痕

■ 職歴

昭和34年 12月生まれ

昭和59年 大阪医科大学卒業後、大阪医科大学形成外科学教室(田嶋定夫教授)に入局、臨床研修開始

昭和61年 高知県近森病院で外科と救急医療研修(2年間)

平成 元年 埼玉医科大学総合医療センター形成外科、マイクロサージャリーの研修(2年半)

平成11年 英国Oxford大学Department of Human anatomy & Geneticsに 留学(1年間)

平成12年 大阪医科大学助教授(形成外科学教室)

平成16年 大阪医科大学教授(現 大阪医科薬科大学)

■ 主な学会/専門医資格

日本形成外科学会(形成外科専門医、皮膚腫瘍外科指導専門医)、小児形成外科分野指導医、日本頭蓋顎顔面外科学会(専門医)、日本手外科学会専門医、日本マイクロサージャリー学会、日本美容外科学会、日本抗加齢医学会、日本創傷外科学会、国際顎顔面外科学会(Associate Member)、日本形成外科手術手技学会理事長、日本口蓋裂学会理事、国際マイクロサージャリー学会(Active Member)

■ 研究課題

抗接着分子抗体を用いた皮弁の再灌流障害の防止および同種皮弁移植の拒絶反応の抑制
ケロイド・肥厚性癬痕のエネルギー代謝、遊離筋弁移植による顔面表情筋の機能再建
唇裂外鼻変形の治療

● 教室(診療科)の概要・特徴 ●

形成外科は、皮膚をはじめとする軟部組織や骨組織を含めた顔面全域など広い範囲を対象とする診療科です。

大阪医大では、顔面外傷、顔面骨骨折、頭蓋顎顔面の先天異常や変形に対する三次元実体模型、三次元画像を用いたシミュレーション手術、唇顎口蓋裂に対する総合的治療、外傷や悪性腫瘍切除による組織欠損やマイクロサージャリーによる治療、Qスイッチアレクサンドライトレーザー、Vビームレーザーを用いた各種あざの治療を積極的に行っています。

● 教室(診療科)指導医・上級医 ●

氏名(職掌)	専門医	参加学会
塗 隆志(診療准教授)	小児形成外科分野指導医、再建マイクロサージャリー分野指導医ほか	日本形成外科学会、日本マイクロサージャリー学会ほか
大槻祐喜(講師)	形成外科専門医、日本創傷外科学会専門医、再建マイクロサージャリー指導医	日本形成外科学会、オンコプラスチック学会ほか
廣田友香(講師(准))	形成外科専門医、小児形成外科分野指導医	日本形成外科学会、日本口蓋裂学会ほか
光野乃佑(助教)	形成外科専門医、小児形成外科分野指導医、日本創傷外科学会専門医	日本形成外科学会、日本創傷外科学会

■連絡先：大阪医科薬科大学形成外科学教室 TEL:072-683-1221

■ホームページ：<https://www.osaka-med.ac.jp/deps/pla/>

初期研修プログラムの特徴

形成外科は、年間入院手術 500例、外科手術 1,200例と豊富な症例数を有しています。先天異常、顔面外傷、再建を含めて形成外科学全般に関して幅広い専門研修を受けることが可能です。

形成外科の初期研修は、形成外科学全般の知識と臨床能力および技術を修得することを目的とし、形成外科領域のいかなる分野の診療、手術技術においても習熟した形成外科専門医の育成を目的としています。

当科の特徴

1. 唇裂口蓋裂

出生前診断にて唇裂と診断された胎児の母へのカウンセリングから成長に応じた手術まで長期にわたり患者との関係を重視した治療を行っています。唇裂特殊外来では言語療法士外来も併設しており、言語機能発達に合わせた治療を行っています。

2. 乳房再建

近年乳がん切除後の乳房再建術は需要が高まっており、大阪医科薬科大学および連携施設においても皮弁や人工インプラントを用いた再建術を行っています。また近年では、再建の質を高めるために3Dカメラを用いた術前シミュレーションを行っています。

3. リンパ浮腫に対するリンパ管静脈吻合

顕微鏡を用いて径0.5mmほどのリンパ管と静脈の吻合を行うリンパ管静脈吻合術は、スーパーマイクロサージェリー技術を用いて行われます。乳癌や婦人科疾患の手術後や外傷などで発症する上肢や下肢のリンパ浮腫に対して手術が行われ、院内だけでなく他院からの紹介も多く、良好な成果を上げています。大阪医科薬科大学では理学療法を目的としたリンパ浮腫看護外来も併設しており、保存的治療から外科治療まで幅広く行っています。

4. 小耳症外来

小耳症に対して、肋軟骨を用いた耳介形成術を行っています。また、耳鼻科と共同で聴力の改善が見込まれる症例に対しては同時に鼓室形成術もおこない、整容面と機能面を考慮した治療を行っています。

5. 頭頸部再建やフットケアなどのチーム医療

複数の診療科と合同で治療を行うチーム医療において、当科は再建外科としての重要な役割を担ってきました。頭頸部領域では30年以上前から、耳鼻科、脳外科、食道外科と協力して悪性腫瘍の治療を行っています。また、他科や地域医療と連携が必要なフットケアにも力を入れています。

6. 難治性潰瘍における創内持続陰圧洗浄療法

2004年より局所陰圧閉鎖療法に持続的な洗浄機能を付加した創内持続陰圧洗浄療法を開発し、豊富な経験と数多くの論文を発表しています。主に難治性潰瘍(縦隔洞炎、褥瘡、下腿潰瘍など)に対して本法を施行しており、その治癒率は飛躍的に向上しています。



さらに開放骨折の初期治療や脳外科領域の感染などに対しても臨床応用しています。

7. レーザー治療

小児を中心にあざや血管腫に対してレーザー治療を行っております。広範囲のものに対しては全身麻酔下に施行しています。

8. 頭蓋縫合早期癒合症

頭蓋縫合早期癒合症に対して、脳神経外科と合同で頭蓋形成術を行っており、県外からも患者様が来院されています。

また、専門研修プログラムでは地域医療の研修が可能です。具体的な到達目標を以下に示します

研修内容と到達目標

<1年目>

- 形成外科入院患者を、主治医の指導のもと診療する。
- 形成外科疾患全般の病態を把握し、的確な診断、治療計画、症例のプレゼンテーション、手術計画を行う。
- 各疾患に対する画像診断を含めた術前準備、術後管理方法を修得する。
- 形成外科疾患における処置を修得する。

<2年目>

- 形成外科疾患の各分野についての病態、診断、治療についての知識を深め、手術手技を身につける。
- 各症例の問題点を的確に指摘し、適切な手術計画、術後管理方法について提示できる。
- 全層、分層の皮膚採取、自家骨採取、筋膜採取を行う。
- 1年目の指導を行い、各疾患への理解を深めるとともに、自身の1年目で修得した診断、治療の技術の習熟につとめる。

週間スケジュール

月曜日	病棟回診、外来診察 合同手術(頭頸部再建、乳房再建)、病棟にて患者診察
火曜日	形成外科メインの手術日 術前術後カンファレンス
水曜日	手術、合同手術(乳房再建) 病棟にて患者診察
木曜日	形成外科メインの手術日 レーザー治療 術前術後カンファレンス
金曜日	外来診察 病棟にて患者診察
土曜日	手術または外来診察 病棟にて患者診察

後期研修プログラムの特徴

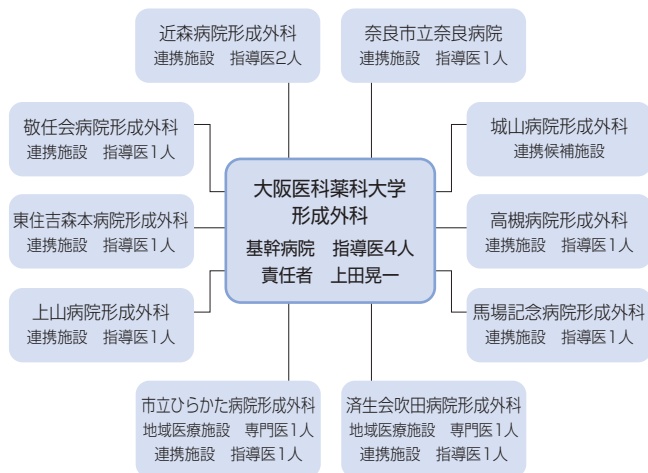
日常の臨床から得られる、様々な問題点から発展した臨床研究を積極的に企画し、実践する能力を身につけることができる研修システムを構築しています。具体的には、①学会報告や症例報告、②臨床研究から論文作成、③当科と連携を深めている形成外科疾患研究における基礎リサーチへの参加、などがレジデント研修期間に可能です。

研修プログラム

<研修施設群>

大阪医科薬科大学形成外科の後期研修プログラムの研修施設は、大阪医科薬科大学形成外科(基幹施設)、近森病院形成外科、市立奈良病院形成外科、彩樹守口敬任会病院形成外科、済生会吹田病院形成外科の5つである。教育関連施設は、城山病院形成外科、東住吉森本病院形成外科、市立ひらかた病院形成外科、高槻病院形成外科、馬場記念病院形成外科、上山病院である。以上の施設には形成外科認定医が在籍しているため、形成外科認定医の指導の下で修練を行なうことができる。形成外科専門医の修練として重要な期間を送れるように指導体制も整えている。

ただし、関連病院での修練開始時期、修練期間については、個々の状況に応じて調節する。



研修風景

研修内容と到達目標

- 3年目までに修得した知識と技術を元に、手術を計画、施行を行う。技術、知識の修得度に応じて症例に対する手術を行う。
- 主治医とともにまたは主治医として、手術計画、術後管理を立案し、実施する。
- マイクロサージャリーによる神経縫合
- 皮弁術のドナー閉鎖
- 良性腫瘍の切除、植皮等による再建術術刃(指導医のもと)
- 入院中のみならず退院後の外来診療を合わせて行う。
- 大学のみならず連携施設での研修を行う。
- 経験した症例について学会発表を行い、論文作成を行う。
- 学会、研究会で発表を行い、論文作成を行う。

評価方法

「形成外科専門医受験資格」の基準症例を用いて、形成外科疾患の受け持ちが万遍なく行われているかどうかを基準に行う。また、術前術後カンファレンスでの発表内容からも合わせて検討する。なお、形成外科専門医の取得には、形成外科の臨床に基づく論文発表が義務づけられているので、できるだけ多くの症例を経験して、学会発表、論文発表に努める必要がある。

取得できる認定医・専門医

日本形成外科学会専門医、日本頭蓋顎顔面外科学会専門医
日本レーザー学会専門医、創傷外科学会専門医
褥瘡学会専門医、日本皮膚悪性腫瘍学会専門医
日本形成外科学会小児形成外科分野指導医
日本形成外科皮膚腫瘍外科指導専門医
日本形成外科学会再建マイクロサージャリー指導医

参加学会等

日本形成外科学会/日本頭蓋顎顔面外科学会
日本マイクロサージャリー学会/日本口蓋裂学会
日本シミュレーション外科学会/日本熱傷学会
国際マイクロサージャリー学会/国際頭蓋顎顔面外科学会
創傷外科学会/日韓形成外科学会/日本手外科学会
日本リンパ学会/日本リンパ治療学会



国際学会 in Oxford

大学院における研究活動

教室独自の研究

- ケロイド・肥厚性瘢痕のエネルギー代謝
- 静脈皮弁のdelayに関する研究
- 顔面骨骨折の固定における力学的解析
- 三次元モデルを用いた頭蓋顔面骨切り術のシミュレーション手術
- 三次元解析ソフトを用いた各種計測
- リンパ浮腫の解析
- 眼瞼下垂におけるMuller筋の変性に対する研究
- 一眼レフ3Dカメラの臨床応用
- AR技術を活用した手術時情報共有システムの開発

本学での共同研究

- 薬理学教室
W9ペプチドと幹細胞を用いた新しい骨再生治療の開発
- 生理学教室
ノックアウトマウスを用いた発毛の研究および腫瘍免疫の研究
- 解剖学教育
ケロイド増殖におけるオートファジー効果の研究

他大学との共同研究

- 東京医科歯科大学歯学部分子発生学教室
頭蓋縫合早期癒合症の発生メカニズムおよび治療

先輩レジデントのコメント

柳生 穂子 令和1年度レジデント

なくなったモノをつくる唯一の科

形成外科では子供から高齢者まで、疾患範囲は頭蓋から足趾まで多岐にわたり、「なくなったモノをつくる唯一の科」であり、傷を治すことを念頭に置いて患者さんの体型や既往歴、年齢や性別や疾患部位によって手術方法や切開方法を変更し、手術中に術後の経過まで考えながら手術を行います。

私は研修病院が市中病院であり来院する疾患の種類は限られていても、発想力や創造力を使って手術方法を考え、同じ疾患でも同じ手術デザインがない点がとても面白く、魅力的に感じ、勇気を持って形成外科に入局しました。

入局当初は大学病院で行われている他科との共観手術である再建手術や、見たことのない先天性疾患の手術などアカデミックな手術についていけるのか、手術を理解できるのかたくさん不安がありました。しかし、優しい先生方にご指導いただきながら勉強させていただくことができ、実際に手術を理解するにつれてどんなアカデミックなものでも一つ一つの技と知識の積み重ねであることを実感し、職人のような上級医の先生方の手術や術後処置など一つ一

つに学ぶことがたくさんありとても楽しく充実したレジデント生活となりました。

形成外科に興味を少しでもある方は一度見学に来ていただき、医局の雰囲気や実際の症例等を是非見ていただければと思います。

中尾 多佳子 令和1年度レジデント

的確な指導と働きやすい環境

もともと大阪医大卒業ですが、入局前に6~7の大学病院の見学を行いました。この医局に決めた1番の理由は、「雰囲気の良さ」でありました。たった1日の見学で得られる情報は限られていますが、見学時に感じた雰囲気と違わず、この医局で過ごした1年間では多くを学べたと自負しております。

学会での発表や勉強会の参加は希望通りに経験させて頂き、それに対する丁寧な指導も行って頂きました。

形成外科は他の外科と比べて、比較的女医が多い科ですが、特に当科では女医が働きやすい環境が整ってありました。

また多岐にわたる形成分野の知識取得も、先天異常、乳房再建、マイクロサージェリーと3つのグループに分かれていて、それぞれをローテーションすることにより体系立って学ぶことができ、学びやすかったように感じました。

形成外科医としてここで1年目を過ごし、基礎を学ぶ最適な医局だと実感しております。

是非、見学や説明会に足を運んでみてください。

吉野 葵 令和1年度レジデント

充実した研修環境

研修医の時に形成外科をローテートし、その時初めて形成外科の実際に触れました。想像以上に幅広い領域の診療を行っていること、どのような症例でも自分の持っている知識や技術を組み合わせることで諦めずに立ち向かえることを目の当たりにして、私もこのような診療に携わってみたいと思い、入局させていただきました。

大学での研修は毎日が充実しています。数ヶ月単位で複数のグループをローテート出来るので、専門性の高い症例も満遍なく様々な症例を経験することが出来ます。またチーム制での診療を行っていること、屋根瓦式で指導を受けられることはレジデントの研修環境としてはとても恵まれているなど感じています。またカンファレンスで症例のプレゼンを行うことは自分自身で知識や技術を再度学ぶことが出来、また上級医からフィードバックを頂けるのでとても有意義な機会であると感じています。

私自身は形成外科医としてまだ始まったばかりで日々新たな症例や手術を経験し続けている最中ではありますが、いつまでも飽きることなく、挑戦し続けることが出来る科だと感じています。進路に悩まれている方、是非足を運んで頂き雰囲気を感じていただければ幸いです。